

Ⅲ 鳥取県でのカラマツ育苗・植栽技術の確立

(実施期間：令和元年度～令和4年度 予算区分：県単 担当：富森加耶子)

1 目的

カラマツは初期成長が早く、材の強度に優れることなどから本県の新たな造林樹種として注目されている。本来カラマツは信州以北の主要な造林樹種であるため、本県に適した育苗及び植栽技術を確立することを目的とする。本年度は植栽から1年経過したカラマツへのシカ食害防止試験を実施した。

2 実施概要

(1) 方法

令和元年12月初旬、智頭町駒埴地内にカラマツ194本とスギ65本を植栽した。食害対策の効果を検証するため、カラマツ植栽区には食害防止クリップの装着(写真1)、忌避剤散布、無処理の3処理区を設けた。クリップは植栽と同時に装着し、月に1回付け直した。忌避剤は植栽当年の12月、翌年の4、7月に散布した。枝葉の食害痕の有無とその部位を主軸又は側枝に区分して記録した。

(2) 結果

カラマツ、スギ共に食害による枯死は見られなかったが、スギは全ての個体で主軸及び側枝の食害を受け、樹形の異常が多く見られた(写真2)。カラマツは食害対策の有無にかかわらず、いずれの処理も8割以上が食害を受けた(図1)。クリップ区では成長に伴って主軸がクリップから抜け出した部分、忌避剤区では散布後に成長し、忌避剤が付着していない部分が食害を受けた。カラマツはスギ同様にシカの食害を受けることがわかったが、現時点ではスギのように著しい樹形の異常は見られなかった。成長を阻害する主軸の食害は、忌避剤を散布することで無処理と比較して約3割軽減できると考えられた。

3 結果の図表と研究の様子

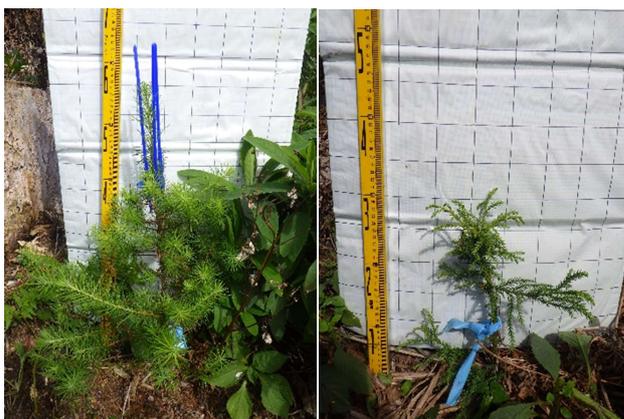
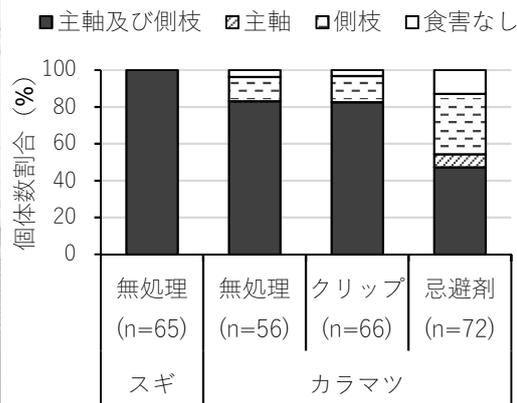


写真1 クリップ装着時の様子(R2.10撮影)

写真2 食害を受けたスギの様子(R2.10撮影)



(図1)調査終了時点での食害部位の内訳